

平成 26 年度水産研究所研究成果発表会開催

水産研究所は平成 27 年 3 月 17 日、岡山市内で研究成果発表会を開催した。当所が行った研究成果の一端を、水産業関係者をはじめ県民に広く紹介し、理解と関心を深めてもらうことを目的として毎年開催しているもので、当日は漁業者及び漁業関係団体、自治体職員、大学等教育機関、一般県民等 70 名が参加した。

口頭発表は 3 課題で、このうち「瀬戸内海の貧栄養化とノリ色落ち」では、海水中の栄養塩不足が原因でノリの色落ちが深刻化している現状とその対策として開発した栄養塩の自動計測システムについて紹介した。

「カキ殻で海底の生物を豊かに」では、底質環境の改善を目的に備前市沖の海底にカキ殻を敷設し、2 年間観察したところ、底生生物が多様化し、マナマコやシロギスなどが増加したことを紹介した。さらに、「地魚の旬を科学する」では、うま味成分などの分析結果から、隠れた旬が明らかになり、これらの情報を効果的に発信することで地魚の消費拡大につなげる取組を紹介した。

参加者からは、栄養塩を自動計測する間隔をさらに短縮し精度を高めてほしい、カキ殻はゴミにはならないのか、旬の情報を発信する方法を工夫しては等、様々なご意見を頂戴した。今後の研究開発にこれらを生かしていきたい。当日参加していただいた皆様方には心よりお礼を申し上げます。(資源増殖室：萱野)



水産研究所研究成果発表会の様子

★参考資料

<http://www.pref.okayama.jp/page/421180.html>

(発表要旨とポスター展示)